

# 令和3年度 高等部研究について（中間まとめ）

## I 研究テーマ

### 「児童生徒の自立的・主体的な生活につながる授業実践の取組」 ～ 各教科等との関連を意識した作業学習の授業実践と改善 ～

## II 研究テーマ設定の理由

### 1 学校教育目標・学部教育目標から

本校では学校教育目標として「児童生徒一人ひとりが個性と能力を發揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る」を掲げており、高等部においてもこの目標を目指し、実態に合わせて学部教育目標を定めている。高等部の学部教育目標と経営方針を【表1】に示す。

【表1】本校高等部の教育目標と経営方針

| 学部教育目標   |
|--|
| (1) 自ら学び、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。<br>(2) 様々な体験的学習や活動をとおして社会生活に必要な力を身に付けるとともに、自らの進路を考え自己選択、自己決定ができる。<br>(3) 自ら健康や安全を考えて生活することができる。  |
| 経営方針   |
| (1) 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成をとおして生徒一人ひとりの実態及び教育的ニーズの的確な把握と必要な支援を行う。<br>(2) 作業学習をとおして将来の就労生活を具体的に理解するとともに、必要な技能・態度を身に付けられるようにする。<br>(3) 自立した生活を目指し、将来の社会生活に必要な基礎を自ら学ぶ姿勢を育てる。<br>(4) 生徒一人ひとりが役割をもち、互いに協力する姿勢を育成することにより、高等部の一員としての自覚を育む。<br>(5) 生徒の円滑な集団参加を勧めるために重複障がい学級と通常学級が計画的に交流を行う。<br>(6) 健康・安全に関する知識・態度の習得を支援する。<br>(7) 家庭・寄宿舎・学園・関係機関との共通理解と支援の一貫性を図る。また、地域との交流を行うことにより、主体的な社会参加ができるようにする。<br>(8) 生徒のニーズと個々の自立に向けた教育課程及び新学習指導要領に対応した教育課程を検討する。 |

高等部では、卒業後のそれぞれの進路に向けて生徒一人一人が主体的に豊かで充実した生活を送ることができることを目指して、日々の教育活動に取り組んでいる。特に、卒業後の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習する「作業学習」を中心に教育課程が組まれている。

## 2 高等部の授業づくり（作業学習）から

千葉大学教育学部附属特別支援学校教育実践研究会（2018）は、「高等部にあっては、現実の社会とのかかわりを強め、卒業後の生活に自然につながる学校生活となるようにします。『働く生活』を重視して、一年間の学校生活を計画します。」としており、学習指導要領解説では「作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」としている。これらのことから、高等部が目指す生徒像に作業学習をとおして近づくことができると期待することができる。

また、高等部作業学習の指導計画目標には【表2】が挙げられている。加えて、前年度までの学部研究において高等部職員で確認している本校高等部が作業学習において大切にしていることを【表3】に示す。

**【表2】 高等部作業学習の指導計画目標**

- |  |
|--|
| <p>(1) 地域との関わりを重視した作業活動の展開をとおして社会生活に必要な知識・技能・態度を身に付けることができるようにする。</p> <p>(2) 生産や販売活動をとおして作業する喜びや成就感を味わい、働く意欲を高められるようにする。</p> <p>(3) 生徒が共同で取り組むことにより、一人ひとりが役割意識をもち、自主的に作業ができるようにする。</p> |
|--|

**【表3】 本校高等部の作業学習で大切にしている点**

- |   |
|---|
| <p>(1) 「働く」ことを学校生活の中心に据え、「作業学習」に取り組む。</p> <p>(2) 生産や販売活動をとおして卒業後の「働く」意欲を高められる授業づくり。</p> <p>(3) 生徒同士協力をしたり、地域と関わったりする経験をとおして必要な知識・技能・態度を身につけられる授業づくり。</p> <p>(4) 個に目を向けた目標設定と評価を生かした授業づくり。</p> |
|---|

## 3 これまでの学部研究から

前次研究において高等部では、主体的に学ぶ姿を目指して、各教科等を合わせた指導の指導形態である「作業学習」に焦点を当てた授業実践に取り組み一定の成果を得ることができた。前次研究の成果と課題を以下に示す。

### (1) 成果

#### ① 作業学習の考え方を共通理解

授業づくりの基本的な考え方を共通理解することで作業学習を通して「働く」ことの本質に迫りながら授業改善に取り組むことができた。

#### ② 「授業改善の視点」を活用した授業改善

2回（7月、11月）の授業参観週間を設定し、1回目の授業研究会で出された「改善点・課

題」「これから実践する（できる）こと」を2回目の授業づくりにおいて各作業班の具体的な授業改善の視点として活用し、授業づくりに取り組んだ。

③ 授業記録シートの作成と共有

個人の様子を日々記録することで、一日一日の生徒の様子から必要な支援や効果的な目標設定に生かすことができた。また、全作業班が作成したシートをまとめて全員に配付したことで生徒の変容を全員で共有し、授業づくりについて他の作業班の取り組みをさらに細かく確認することができた。

## （2）課題

① 「働く」ことの本質を共有

生徒一人ひとりが「仲間と共に主体的に作業した達成感や充実感」を感じることでできる授業づくりについてさらに精度を上げる必要がある。

② 観点別の目標設定と評価

単元設定時の目標設定や単元終了時の評価の場面で観点別に目標をたてることや評価することの意味の理解を進め、生徒一人ひとりにどのような姿を期待し（目標）、どのような活動（指導内容）を計画するかを多面的な視点で組み立て、より効果的な授業づくりに取り組む。

③ 各教科等別の目標及び内容に照らした評価

各教科等の内容を「各教科等を合わせた指導」の中から見出す意識をもつ必要がある。

④ 授業記録シートの活用

授業記録シートを作成する効率面を考慮し、日常的に活用できるように改善し、有効な授業づくりにつなげていく。

以上のことから、本次研究においては前次研究で行った「作業学習」に別の視点（できる状況づくり、各教科等に分けて考える視点）を取り入れた「作業学習」の実践をとおして、より学校教育目標・学部教育目標に掲げられる生徒像に迫りたい。

## Ⅲ 研究内容

### 1 学部研究の基本構想と共通理解

### 2 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」の検討と共通理解

### 3 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」を活用した授業実践とPDCAサイクルによる授業改善の取組

### 4 授業づくりシート等のさらなる活用と改善

### 5 研究のまとめ

#### IV 研究計画

| 月  | 期日, 内容         | 主な内容   |
|----|----------------|--|
| 4  | 15日 学部研①       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度前沢明峰支援学校全体研究計画(案)の概要について周知</li> <li>・学部研究の方向性について提案・協議</li> </ul> |
| 5  | 12日 学部研②       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究の内容, 計画等について協議, 資料の検討</li> </ul>                                   |
|    | 28日 全体研究会①     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究について全体に提案</li> </ul>   |
| 6  | 17日 学部研③       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくりの共通理解と取組状況の検討</li> </ul>                                       |
| 7  | 5日 学部研④        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画と各教科等との関わりについての検討</li> </ul>                                    |
| 8  | 19日 学部研⑤       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくり, 各教科に分けて考える視点を活用した授業づくり(授業参観週間1回目指導案の検討等)</li> </ul>          |
| 9  | 13~17日 授業参観週間① | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくり, 各教科に分けて考える視点を意識した授業づくりと授業参観</li> </ul>                       |
|    | 22日 授業研究会①(高)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案授業: 食品班</li> </ul>   |
| 10 | 5日 学部研⑥⑦       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくり, 各教科に分けて考える視点を活用した授業改善(できる状況づくりの工夫, 授業づくりシート作成)</li> </ul>    |
|    | 15日 授業研究会②(中)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部の授業提案についての協議</li> </ul>   |
|    | 25~29日 授業参観週間② | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくり, 各教科に分けて考える視点を活用した授業改善と授業参観</li> </ul>                        |
| 11 | 18日 学部研⑧       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・できる状況づくりでみられた生徒の姿の変容についての協議</li> <li>・授業づくりシートの検討</li> </ul>           |
| 12 | 9日 学部研⑨        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究のまとめ, 全体研究会資料の検討</li> </ul>  |
|    | 10日 授業研究会③(小)  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部の授業提案についての協議</li> </ul>   |
|    | 24日 全体研究会②     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究のまとめの発表と協議</li> </ul>  |
| 1  | 20日 学部研⑩       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部研究の反省</li> <li>・全体研究会を受け, 必要に応じて資料の修正</li> </ul>                     |
| 2  | 17日 学部研⑪       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体研究資料の確認</li> <li>・2年次の研究内容についての意見交換, 方向性の確認</li> </ul>               |

#### V 研究の推進にあたって

##### 1 高等部における「できる状況づくり」

- (1) 「できる状況づくり」の考え方を共通理解し, 実践することで生徒の自立的・主体的な生活につながる授業づくり, 授業改善
- (2) 「できない生徒」を「できる生徒」に→「できる状況」において「できる生徒」に

「できる状況づくり」の「できる状況」について小出（2010）は、『『できる状況』とは、『精いっぱい取り組み、首尾よく成し遂げられる状況である。したがって、精いっぱい取り組める状況と、首尾良く成し遂げられる状況をつくるのが、できる状況づくりである。』と述べている。また、『『できない子ども』を『できる子ども』にするには、子どもに『できる状況』をつくってあげることが必要である。『できる力』をつけて『できる子ども』にしようとするのではなく、子どもを『できる状況』において、『できる子ども』にするのである。』とも小出（1983）は述べている。できないのは、『できない状況に置かれがちな子ども』と捉えることが大切であり、「できる状況づくり」について考えるときに大切なのは、教師が生徒を「伸ばす」のではなく、生徒は自ら主体的に伸びる存在であると捉えることである。このような考え方で授業づくりをすることで、生徒主体の授業となり、生徒たちのできることが増えていくと考える。

## 2 各教科等に分けて考える視点

- (1) 前次研究で検討した授業づくりシートをさらに改善する（各教科等に分けて考える視点をもてるような形式）。
- (2) より具体的に生徒の姿を捉え、より具体的に自立的・主体的な姿を目指した授業づくり、授業改善

前次研究において、「各教科等を合わせた指導」においても学ぶべき内容は各教科等が全てであり、それ以外は想定されていないということ、そして「各教科等を合わせた指導」に生きた形で各教科が満遍なくちりばめられていることを共通理解してきた。授業を評価する際、どの教科のどの力がついたのかを見取る力を教師がつけることで、生徒の実態をより細かく見取ることができ、それによって次に期待する生徒の姿をより具体的に思い描き、より具体的に授業改善することができるのではないかと考える。そのために、前次研究で検討した授業づくりシートを、各教科に分けて考える手助けができる授業づくりシートに改善し、授業づくり、授業改善に活用したい。

## VI 研究の実際

### 1 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」について

#### (1) 「できる状況づくり」の共通理解と取り組み状況の検討

研究を進めるにあたり、Vに表した考え方を学部全体で共通理解を図る必要があると考えた。その後、作業班毎に現在行っている「できる状況づくり」の洗い出しと今後考えられる「できる状況づくり」について協議を行った。各班で協議した結果をまとめたものを【表4】に示す。

#### (2) 「各教科に分けて考える視点」をもつための取組

##### ① 各教科等との関わりの検討について

「各教科に分けて考える視点」をもつために、昨年度の個別の指導計画をもとにそれぞれの目標、評価がどの教科と関わりがあるか検討し、各教科等との関わりを作業班毎に共通理解した。目標・評価を各教科等に分類できることや、その視点をもって授業にあたること、また、教科に分けて考え、その視点で見えていくと生徒の具体像がみえてくることを共通理解

することができた。【図1】は、食品班が行ったものである。

【表4】現在行っている「できる状況づくり」と今後できそうなことについてのグループワークのまとめ

|                    |    | 現在取り組んでいること   | 今後考えられるできる状況づくり   |
|--------------------|----|---|---|
| ア<br>精一杯取り組める状況    | ヒト | <ul style="list-style-type: none"> <li>個への対応（課題・製品・作業内容等）</li> <li>声掛け（些細なことも褒める）→モチベーション・やる気UP→自己肯定感UP</li> <li>グルーピングやペア</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>共同で製作（作業分担）</li> <li>実態を選ばない環境や支援</li> </ul>   |
|                    | モノ | <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫（本物の道具、個数確認しやすいもの、週予定、見通し、工程表等）</li> <li>道具の工夫</li> <li>座席の工夫</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>実態を選ばない環境や支援</li> </ul>  |
|                    | コト | <ul style="list-style-type: none"> <li>目標の設定、目標の数値化</li> <li>役割分担</li> <li>作業量の確保</li> <li>選択（作業内容・材料等）</li> <li>作業内容の工夫（一定期間同じもの、繰り返す、機械の操作等楽しいと感じるもの→やる気UP）</li> <li>達成感をもてる工夫（依頼を受ける、全工程を一人で行う）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>達成感をもてる工夫</li> <li>発言しやすい環境作り</li> <li>自分たちで考える（場所、内容、新商品の開発等）</li> <li>楽しいと思える製品作り</li> <li>不得意なことにも取り組める支援</li> <li>共同で製作（責任感）</li> <li>全行程を一人で行う</li> <li>時間設定の工夫（余裕のある）</li> <li>実態を選ばない環境や支援</li> </ul> |
| イ<br>首尾よく成し遂げられる状況 | ヒト | <ul style="list-style-type: none"> <li>ペアの工夫</li> <li>教員（担当をはっきり提示、同じ指導ができるように）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業内容に必要な知識・技能を作業班の職員で共有</li> <li>時間の確保（待つ）</li> </ul>  |
|                    | モノ | <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫（やりやすさ、見通し、当番表、表示、工程表、マニュアル等）</li> <li>道具（やりがいのあるもの「カッター」、簡易になるもの「電卓」、正確にできるもの等）</li> <li>人・物の配置の工夫</li> <li>用具の配置を固定</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教材の工夫（補助具・道具の充実、ガイド写真入り工程表、一人で行うための安全策等）</li> </ul>  |
|                    | コト | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業内容の工夫（個に合わせた製品や作業、飽きのこないもの、できる作業やできる部分、一定期間同じもの等）</li> <li>成果のわかりやすさの工夫</li> <li>スモールステップアップ→成就感</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>振返りの充実（成果の確認、完成後の使用等）</li> <li>個性を反映させた製品作り</li> <li>能力の高い子をさらに伸ばす工夫</li> </ul>  |

令和2年度高等部食品班目標 食1

<後期>

| 高等部 食品班                 |   | 重点目標  | 指導内容・指導の手立て   | 評価  |
|-------------------------|---|---|---|-----|
| (国) (数) (英) (家) (国) (自) | 重点目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>パンやお菓子作りの技術を習得し、おりに作業することができる。</li> <li>安定した気持ちで作業することができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>レシピを指でなぞりながら、次の工程を読むように確認する。</li> <li>気持ちの切り替え方法を本人と確認する。</li> <li>役割を分担し、自信をつけていけるようにする。</li> </ul> | ○ ◎ |
|                         | 評価の特記事項   | コーンパン、カレーウインナーパン、バジルウインナーパン作りに取り組みました。ドライイーストや塩の計量、電子レンジの出力等、決められた分量や手順で作ることができるよう、レシピを見て確認しながら進めました。繰り返し取り組むことで、手順や生地扱い方を覚え、焼き上がりがふっくらした柔らかいパンを作ることができました。<br>パンやお菓子作りだけでなく、販売活動にも意欲的に取り組みました。 |   |     |
| 重点目標                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業効率や仕上がりを意識して、パンやお菓子作りを行うことができる。</li> <li>お客様とコミュニケーションをとりながら接客をすることができる。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>調理台の使い方(材料等の置き方等)を確認する。</li> <li>出来上りを一緒に確認する。</li> <li>販売に必要な台詞をきちんと表示する。</li> <li>回数を重ね、練習する。</li> </ul>   | ◎ ○   |     |
| 評価の特記事項                 | ペーパーコンエビやチーズケーキなど、いろいろなパンやお菓子作りを行いました。道具や材料を使いやすく配置する工夫もみられました。焼き上がりを確認するなど自分の作った商品に責任をもって取り組みました。前期より販売活動に対する意欲がみられ、特にチーズケーキの販売の際は、販売担当に意欲的に取り組みました。 |   |   |     |

【図1】 個別の指導計画の重点目標と各教科等との関わりを検討した例(食品班)

② 授業づくりシートのさらなる活用と改善について

前次研究で検討した授業づくりシートに「関する教科」を記入する項目を設けた【図2】。

授業記録シート 対象生徒：

| 期日       | 担当作業     | 今日の目標   | 関する教科  | 支援   | 今日の様子   | 次回に向けて   |
|----------|----------|---|--|--|---|--|
| 9月2日(木)  | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業する席が分かって作業できる。</li> <li>道具を準備できる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>国語「読むこと」</li> <li>数学「数と計算」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業の席に名前シールを貼付</li> <li>作業工程表の仮使用</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>名前を見つけ(読み)、その場所で作業できた。</li> <li>写真を見て対応する道具を揃えることができた。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>一部修正を加えた作業工程表を使用</li> </ul>                             |
| 9月3日(金)  | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>工程表に合わせて作業できる。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学「数と計算」</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業工程表を本使用</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業工程表を見て、合わせて作業できた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告する言葉の一部変更</li> <li>作業工程表の一部修正</li> </ul>              |
| 9月6日(月)  | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告する場面が分かり、相手を見て報告できる。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳「規則の尊重」</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告の言葉を一部変更し、「話しやすい」「伝わりやすい」内容とした。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>工程表を見ながら報告できた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙い、次時も同目標で行う。</li> <li>作成個数を知ることで目標とさせたい。</li> </ul> |
| 9月7日(火)  | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告する場面が分かり、相手を見て報告できる。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳「規則の尊重」</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙うため、同支援で行う。</li> <li>一つ作成後は、ホワイトボードの該当欄に磁石を一つ置く。<br/>※前時の方向性より</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>工程表を見ながら報告できた。</li> <li>板伸ばしの終了も、自分で判断して報告できた。</li> <li>職員と磁石の置き方を確かめた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙い、次時も同目標で行う。</li> </ul>                             |
| 9月9日(木)  | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告する場面が分かり、相手を見て報告できる。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳「規則の尊重」</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙うため、同支援で行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>板伸ばしの終了報告ができた。</li> <li>工程表を見て報告できた。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙い、次時も同目標で行う。</li> </ul>                             |
| 9月10日(金) | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>報告する場面が分かり、相手を見て報告できる。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳「規則の尊重」</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙うため、同支援で行う。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>板伸ばしの終了報告ができた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>目標個数を知ることで意欲付けとする。</li> </ul>                           |
| 9月16日(木) | クローバー皿作り | <ul style="list-style-type: none"> <li>目標個数を知り、皿作りができる。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>数学「数と計算」</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>一つ作成後は、ホワイトボードの該当欄に磁石を一つ置く。<br/>※本時の目標2個</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>所定の場所に磁石を置くことができた。</li> <li>磁石を2個置くことで、喜びの声をあげた。</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>定着を狙い、次時も同目標で行う。</li> </ul>                             |

【図2】 関する教科の項目を設けた授業記録シート

【図2】の授業記録シートを使用して、2回計画した授業参観週間に向けて授業の改善を行った。使用后、アンケートを行い以下の意見を得ることができた【表5】。

【表5】授業記録シートのアンケート結果

|        | ア 「関する教科」の項目があることで、各教科等との関連を意識した作業学習の実践改善ができたか。   | イ 使いやすさや改善について  |
|--------|---|---|
| 成果     | <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等との関連を意識することができた。意識するようになった。作業内容が様々な教科で成り立っていることを改めて理解した。(同意見多数)</li> <li>「関する教科」をポイントにして見直すと、十分に取り入れてできている点、教科をもう少し取り入れた方が良い点が明らかになってよかったと思う。</li> <li>関連するところもあったが、逆に「関連するところを探す」こともあった。</li> <li>内容の改善をすることができた。(計測・軽量・成形・表計算ソフトを使った在庫管理等、数量の要素等)</li> <li>指導のポイントとして、引き継ぎが明確となりよかった。</li> <li>「関する教科」の項目があることで支援するときにどこにポイントをおけば良いのかが明確になるのでよいと思った。作業で取り組んでいる活動のそれぞれが各教科と密接かつ複合的に関連していることを再確認する機会になった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>使いやすかった。</li> <li>横に一日の学習の記録が配列してあり見やすいと思う。また、最後の項目から次時の内容・目標とつながり良い。上から下に、学習の流れも把握できて良いと思う。</li> <li>書きづらいことはなかった。関連付けもできたのではないかと。</li> <li>「今日の様子」→「次回に向けて」は次回の計画を考える上で有効かと思った。</li> </ul>   |
| 課題・改善策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各作業の教科に関する内容が整理されるとより目標・評価がしやすいと思う。</li> <li>あまり意識していなかった。普段の必要な学習の中に教科が入っていたイメージだった。</li> <li>個人的にはその項目を書くことで”意識しなければ”という思いにはなったが、実践に結びつかなかった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標に「関する教科」を書けると良い。</li> <li>毎日記入だとあまり変化がなかったり、高い生徒の場合課題を見付けるのが難しかったりする。週1ペースだと変化が見付けやすいと思う。</li> <li>授業の目標が「教科の目標」の場合は書くことが比較的容易だが、態度・行動(報告やマスクの着用など)が目標となっている場合は、どのように関連付けていけばよいか。関連表が提示されるとありがたい。</li> <li>目標についての「関する教科」ではなく、作業内容に対しての関連付けをしてほしい。</li> <li>シンプルな方が書きやすいし、長続きしそう。</li> <li>項目の並び順、何がスッキリ、しっくりくるのか難しい。</li> <li>シートの活用、作業班内での共有を深めていくことが課題。</li> </ul> |

【表5】の結果を受けて、来年度に向けて授業記録シートの改善を行いさらに使いやすく、各教科等を意識した授業ができるように改善していく。

## 2 「できる状況づくり」「各教科に分けて考える視点」を活用した授業実践と PDCA サイクルによる授業改善の取組について

### (1) 授業参観週間(2回)の取組

#### ① 参観シートから

高等部では9月と10月に授業参観週間を行い、各作業班の様子を高等部職員で見合った

り、他学部の職員に公開して、授業参観シート（主体的に活動する姿がみられたか、「できる状況づくり」について）に記入してもらい意見をいただいた。

1回目の授業参観週間では、【表4】をもとに授業改善を行った。2回目の参観週間は1回目の参観シートの意見をもとに授業の改善を行った。その結果、2回目の授業参観週間の参観シートからは1回目のものより、生徒同士でやり方について協議・伝達する姿、工程表を見ながら自分で進める姿、表情良く笑顔で進める姿等、より主体的な姿を見取った意見が増えた。

## ② 2回の授業参観週間を終えての協議から

2回の授業参観週間後にこれまでの取組で見られた子どもの姿の変容について、作業班毎に協議を行った。「できる状況づくり」を進めてきた結果、どの作業班もできるようになった姿や生活への良い影響について等、成果を感じる事ができた。協議の結果を【表6】に示す。

【表6】生徒の姿の変容についての協議のまとめ

| 「できる状況づくり」でみられた生徒の姿の変容  |  |
|---|--|
| 成果  | 課題   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の音楽を流すことで、次に何をするのかを理解し、動き始めるようになった。</li> <li>マニュアルを用いたことにより、指示がなくても準備から片付けまでできるようになった。</li> <li>レシピを見て作れるようになった。<br/>→自分でパンやお菓子を家でも作ってみた。(自信UP・意欲UPにつながった。)</li> <li>調理以外の活動を準備することにより、休むことなく作業に参加できた。</li> <li>グルーピングの工夫をすることにより、苦手なことでも取り組めるようになった。また、相手を思いやった言動をすることができた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や写真カードで理解して、うごけるようになる。</li> <li>他の仕事でもマニュアルがあれば取り組めるようになる。</li> <li>職員の統一した指導が必要である。<br/>例：卵の割り方・皿の洗い方等<br/>→研修会、ネットなど共通教材の使用</li> </ul>      |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「一人で一つのものを作る」取組</div>   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>「図面」や「治具」を整えることで、切断などの難しい作業もスムーズにできたり、正確にできるようになった。<br/>→生徒が「自分でできる」「自分が作っている」という実感をもてる。→生徒の自信、自分の作ったものが売れるという実感→大きな達成感を感じている。</li> <li>簡単な報告の文言を提示し、それを繰り返して伝えることで適切な文言での報告ができてきている。また、役割に応じて必要なことを主体的に確認しようとする事ができた。</li> <li>工程の順番を変えることで、玉留めの位置を正確にできるようになった。</li> <li>「今日の目標」を明確にしたことで、意欲につながった。</li> <li>製品を大きいものにすることで出来高が増えた。→褒められる→意欲的になった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>量が作れない(時間がかかる)、主観が強く客観的な製品の精度も高めにくい。<br/>→集中やモチベーションの維持が難しい。</li> <li>促されないと「終わりました。」のみの報告になってしまうことがある。</li> <li>報告の機会を多く設定することが難しい。</li> </ul> |
| 自主的・主体的な生活につながったか。  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>普段の仕事でも自分の仕事に責任をもって取り組めるようになった。</li> <li>作業班で自信を付けたことにより、時間に遅れることなく作業に出られるようになった。その結果、普段の生活でも遅れることが少なくなった。</li> <li>卵を割ることができたことで、家で卵焼きを作れるようになった。</li> <li>指示を素直に受け入れられるようになった。</li> <li>報告に関しては、促されれば適切な表現を自分で考え、取り組もうとすることができるようになってきている。今後も報告についてはより良く、主体的に行えるような取組を工夫していく。</li> <li>作業学習でできることが増え、生活の中でも自信がついた。</li> <li>自分から誰かに教えたりする部分も増えた。また、正確な説明をすることができるようになった。</li> <li>作業に向かう姿勢は身についてきた。</li> </ul> |  |

## (2) 高等部提案の授業研究会の取組

本校では、例年各学部1回の提案授業による授業研究会を実施している。高等部では今年度からの学部研究テーマに基づき、食品班の作業学習を提案授業として設定した。

食品班は、衛生上の観点から直接参観が難しかったため、当日の授業を動画撮影し、ビデオによる提案授業を行った。提案授業の概要を【表7】に示す。

**【表7】第1回授業研究会提案授業の概要（高等部作業学習食品班）**

|     |               |
|-----|---------------|
| 単元名 | パンやお菓子を作ろう3   |
| 対 象 | 食品班 生徒8名      |
| 授業者 | A (T1)、B (T2) |

提案授業では、資料として、授業づくりシート（単元計画シート【図3】、授業記録シート【図4】）を配付した。

| 単元計画シート 対象生徒：C   |              |   |                       |
|--|--------------|---|-----------------------|
| 対象生徒   | C            | 指導者   | 宮杜・鎌田・田村・小原（絹）        |
| 単元名  | パンやお菓子を作ろう3  |   |                       |
| 単元計画   | 主な内容         | 時数  | 指導内容                  |
| 8月20日（金）   | 丸パン講習会       | 3時間   | 講習会で丸パン作りのポイントを知る。    |
| 8月23日（月）   | 丸パン試作        | 3時間   | レシピを確認しながら、丸パンを作ってみる。 |
| 8月24日（火）   | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 8月26日（木）   | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 8月27日（金）   | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 8月31日（火）   | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 9月2日（木）  | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 9月3日（金）  | 休み           | 3時間   | 休み                    |
| 9月6日（月）  | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 9月7日（火）  | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 9月9日（木）  | バジルウィンナーパン作り | 3時間   | パン作り                  |
| 9月10日（金）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月13日（月）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月14日（火）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月16日（木）   | コーンパン作り（本時）  | 3時間   | パン作り                  |
| 9月17日（金）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月22日（水）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月27日（月）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 9月28日（火）   | コーンパン作り      | 3時間   | パン作り                  |
| 単元目標全体   |              | 単元目標個人  |                       |
| ・さまざまなパンの成形について知り、形のよいパンを作ることができる。<br>【知・技】  |              | ・ゴムべらを正しく使って生地をこね、同じ形のパンを量産することができる。<br>【知・技】 |                       |
| ・生地の状態や工程ごとの仕上がりを確認しながら報告をすることができる。<br>【思・判・表】   |              | ・自分で確認してから報告することができる。<br>【思・判・表】              |                       |
| ・協力して効率的に作業をすすめることができる。<br>【主体的】   |              | ・片付けの際に、周りを見て必要な活動をすることができる。<br>【主体的】         |                       |
| 実態（生活や作業の様子）   |              |   |                       |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業には落ち着いた精神状態で参加できる。</li> <li>・どの活動にも意欲が高いが、回数を重ねると飽きやすい。</li> <li>・レシピを見ながら慎重に作ることが難しいため、頻繁な声掛けや確認が必要。</li> <li>・洗い物を丁寧に拭くことが今の課題。</li> </ul> |              |   |                       |
| 単元を振り返って   |              |   |                       |
|  |              |   |                       |

| 授業記録シート 対象生徒:C |              |                        |          |                         |                        |               |
|----------------|--------------|------------------------|----------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 期日             | 担当作業         | 今日の目標                  | 関する教科    | 支援                      | 今日の様子                  | 次回へ向けて        |
| 8月20日(金)       | 丸パン講習会       | ・ゴムべらの正しい使い方を学ぶ。       | 国語:話をきく  | ・ゴムべらの正しい使い方を言葉と動きで伝える。 | ・話を良く聞き、分かったように見えた。    | 学んだことの実行      |
| 8月23日(月)       | 丸パン試作        | ・ゴムべらの向きに気をつけて生地をこねる。  | 家庭:調理の基礎 | ・ゴムべらの向きについて声掛けをする。     | ・声掛けがなくても、正しくゴムべらを使用。  | 一人でパン作り       |
| 8月24日(火)       | バジルウィンナーパン作り | ・レシピ通り、慌てず作る。          | 国語:文を読む  | ・報告の際にレシピを指さし、目でも確認する。  | ・バジルを入れるタイミングを間違えた。    | もっとよくレシピを見る   |
| 8月26日(木)       | バジルウィンナーパン作り | ・レシピ通り、慌てず作る。          | 国語:文を読む  | ・報告の際にレシピを指さし、目でも確認する。  | ・バジルのタイミングOK。1/3強力粉少なめ | 1/3強力粉を正確に入れる |
| 8月27日(金)       | バジルウィンナーパン作り | ・100gの1/3をなるべく正確に計り取る。 | 算数:数と計算  | ・1/3の分け目まで強力粉がなくなったか確認  | ・1/3の分け目線の入れ方は良い。      | 小スプーンを使う      |
| 8月31日(火)       | バジルウィンナーパン作り | ・100gの1/3をなるべく正確に計り取る。 | 算数:数と計算  | ・1/3の分け目まで強力粉がなくなったか確認  | ・自分から報告できた             | 小スプーンを使う      |
| 9月2日(木)        | バジルウィンナーパン作り | ・100gの1/3をなるべく正確に計り取る。 | 算数:数と計算  | ・1/3の分け目まで強力粉がなくなったか確認  | ・意識できてとても良い。生地のはし方が乱暴  | 生地を長くのばしすぎ    |
| 9月3日(金)        | バジルウィンナーパン作り | 休み                     |          |                         |                        |               |
| 9月6日(月)        | バジルウィンナーパン作り | 生地のはし方                 | 家庭:調理の基礎 | ・綿棒で力を入れてのばしすぎないことを確認   | ・教師が隣にいると意識できる         | ・生地のはし方       |
| 9月7日(火)        | バジルウィンナーパン作り | 生地のはし方                 | 家庭:調理の基礎 | ・長さの目安を提示(手のひらの長さ)      | ・手のひらと比べながらできた。        | ・生地のはし方       |
| 9月9日(木)        | バジルウィンナーパン作り |                        |          |                         |                        |               |
| 9月10日(金)       | コーンパン作り      |                        |          |                         |                        |               |
| 9月13日(月)       | コーンパン作り      |                        |          |                         |                        |               |
| 9月14日(火)       | コーンパン作り      |                        |          |                         |                        |               |
| 9月16日(木)       | コーンパン作り(本時)  |                        |          |                         |                        |               |
| 9月17日(金)       | コーンパン作り      |                        |          |                         |                        |               |

【図4】授業づくりシート（授業記録シート）の例

① 授業研究会のグループ協議

授業研究会はワークショップ形式で行い、授業の成果と課題・改善策について意見交換を行い、ワークシートを作成した。

各グループで作成したワークシートでの「課題及び改善策」の意見を受けて授業改善を行い、2回目の授業参観週間を行った。授業研究会は学部を越えての取組であり、小学部や中学部、寄宿舎の職員にも授業を参観してもらった。グループワークでは他学部ならではの意見もたくさん取り交わされ、授業改善に向けて有意義であった。ワークショップから得た意見の中から2回目の授業参観週間の授業改善に取り入れたものを【表8】に示す。

【表8】授業参観週間（2回目 高等部食品班）における授業改善の取り組み

| 課題   | 課題解決のための手立て  | 手だての評価  |
|--|--|---|
| ○確認場面が多く生徒の手が止まってしまう。生徒同士で確認しあうのもよいのではないか。         | ○生徒が協力しながら活動できるグルーピングをする。<br>・相性を考慮する。<br>・声を掛け合わなければ進まない作業を作る。<br>○職員に確認を求める前に自分でも目視等をするよう声掛けをする。<br>○各工程のポイントをその都度、確認する。 | ○ミニマドレーヌの生地は計量のように繰り返し行う作業の確認は生徒同士でできるようになった。<br>○扱うものが食品なので教師の目で確認しなければならない場面（工程）が多くなってしまふのは仕方がないが、待ち時間を有効に使う生徒が増えた。 |
| ○作りたいものの選択や商品開発につながるような生徒の意見を取り入れるなど意欲付けになるのではないか。 | ○個に応じた課題設定を行う。<br>・お菓子製作の難易度を変える。(材料や道具の使用)例:パウンドケーキ→ミニマドレーヌ→マドレーヌ<br>・達成感のある作業を任せる。                                       | ○自分で試作を繰り返して新商品の開発に取り組んだり、同じお菓子を何度も作ったりすることで自信がついた生徒もいた。個に応じた課題設定ができたことにより、生徒の意欲付けができた。                               |

### 3 研究のまとめ

昨年度までの研究を受け、作業学習の授業改善に取り組んだ今年度の学部研究であったが、ここまでに述べてきた研究の実際を受け、1年次の成果と2年次に向けての課題を以下にまとめる。

#### (1) 成果

##### ① 「できる状況づくり」について

各作業班で現状の「できる状況づくり」を確認し、さらに生徒ができることが増えるように今後取り組める「できる状況づくり」を協議しながら授業改善を行ってきた。「できる状況づくり」を意識した授業を行うことで、生徒の自信につながってきている。その自信が、「人に教える」「自分から挨拶をする」「自分から報告をする」「責任をもつ」「時間を意識するようになった」「家でも調理をするようになった」等、生活の中でも生徒の変容がみられるようになってきた。

##### ② 「各教科等に分けて考える視点」をもつための取組について

「各教科に分けて考える視点」をもつために、作業班毎に目標や評価についてどの教科と関わりがあるか検討し、各教科等との関わりを作業班毎に共通理解することで、ほとんどの職員が各教科等との関わりを再認識したり、意識して授業を行ったり、授業改善することができるようになってきた。このことにより、生徒にも以下の変容（一部）が見られた。

- ・時間を意識した活動を取り入れたことで、自分たちで声を掛け合いながら取り組む姿や時間を意識したり作業の流れを自分たちで考えたりする力がついた。(受託班)
- ・団子作りの生徒は、5個並べることが身に付き数も数えられるようになった。(陶芸班)
- ・教師が教科を意識した文言を使って目標を設定することにより、生徒が「粘土団子を○個作る」(数学)や「手跡がつかないように作る」(美術)などの発言をするようになった。(陶芸班)
- ・職員が作業内容に理科を意識することで、生徒は何のためにその作業をするのか(例えば「水をなぜあげるのか」など)、作業内容の目的をもって取り組むことができた。  
(農耕班)
- ・職員が数学を意識しながら授業づくりをすることで、生徒が生地を6等分する際に割り算や計量を自分でできるようになった。(食品班)
- ・家庭科の技術力が高まった。(ボタン付け、ヨーヨーキルト、刺し子)(縫製班)
- ・リサイクル回収処理業者に納品に行くことによって、社会の仕組みを知り、リサイクルに興味をもつようになり、意識が変わった。(リサイクル班)

##### ③ 授業づくりシートの活用について

昨年度までの研究で様式を検討してきた「授業づくりシート(単元計画シート、授業記録シート)を作業目標と各教科との関わりを見出しやすくするように改善(図5)し、2回の授業参観週間で活用した。それぞれの授業を検討する際、授業づくりシートを活用することで、以下の成果を得られた。

- ・各教科を意識して授業をしたり，改善したりすることができた。
- ・関わる職員がどこにポイントを置いて指導すれば良いか引き継ぎをすれば良いか明確になった。
- ・「関する教科」をポイントにして見直すと，十分取り入れてできている点，教科をもう少し取り入れた方が良い点が明らかになった。
- ・問題点が明確になり，指導改善に役立った。
- ・職員が情報を共有することによって，指導が統一された。

授業づくりシートの活用により，上記のように，教師の見方・考え方が変わることで，生徒にも良い影響が出ている。以下に各作業班で見取った生徒の変容をまとめる。

- ・次の課題を生徒も職員も意識して考えるようになった。(食品班)
- ・生徒の目標を共有することで指導に統一性や系統性が生まれ，効果的な指導ができた。その結果，決められた範囲の草をきれいに取れるようになり，範囲も広げることができた。(農耕班)
- ・出来高の個数を記録することで，生徒の技術力の向上が目に見える形で確認できた。明確に確認することで生徒への声掛けを行う際，具体的で前向きな言葉掛けが多くなり，生徒の作業意欲・自信が高まった様子が感じられた。(縫製班)
- ・毎日目標を設定することで，細かな指導ができるようになった。それにより，生徒も目標や，やる事が分かりやすくなり，意識して作業に取り組めるようになった。(リサイクル班)
- ・授業づくりシートを活用したことによって，次への課題が明確になり，課題達成の機会が増え，生徒の自信につながった。(受託班)
- ・授業づくりシートを活用したことによって，生徒の成果と課題が明確になり，教師のアプローチがスムーズにできた。生徒の課題をより具体的な表現で目標にし，伝えることで(丁寧を作る→ひびが入らないように作る，粘土を落とさないように等)，生徒が目指す目標がはっきりし，生徒のモチベーションがあがったり，課題克服がスピードアップした。(陶芸班)

| 期日         | 担当作業 | 今日の目標 | 関する教科 | 支援 | 今日の様子 | 次回に向けて |
|------------|------|-------|-------|----|-------|--------|
| 月 日<br>( ) |      |       |       |    |       |        |
| 月 日<br>( ) |      |       |       |    |       |        |
| 月 日<br>( ) |      |       |       |    |       |        |
| 月 日<br>( ) |      |       |       |    |       |        |
| 月 日<br>( ) |      |       |       |    |       |        |

【図5】授業づくりシート(授業記録シート)

## (2) 課題

### ① 各教科等との関連について

【図1】に表した各教科等との関わりの検討や【図2】の授業記録シートを活用しながら行ってきた授業づくりに取り組んだ後、アンケートを行った。アンケートではたくさんの成果や課題に対する意見が出された。その中で、「各教科等との関連を意識することはできたが実践まで至らなかった。」や「態度などの行動面に対してどのように関連付けていけば良いのか」等、課題も明らかになった。【表5】の成果に示したように、各教科等との関連を意識できるようになってきているが、次年度はさらにどの教科のどの力がついたのかを見取る力をつけることで、生徒の実態をより細かく見取り、次に期待する生徒の姿をより具体的に思い描きながらの授業づくり、授業改善をしていきたい。そのために、各教科等に分けて考えることの意味の確認や各教科等を意識した授業をしたことで成長した生徒の姿の確認をして、より具体的な生徒の姿をとらえる授業づくりを目指していきたい。

### ② 授業づくりシートの様式について

授業づくりシートのアンケート結果【表5】より明らかになった課題（上記②）に対応できるよう、各教科等を通した生徒の実態が捉えやすくなるようなシートの工夫や態度などの行動面と各教科等との関連について学部全体で検討していくことで、各教科等への意識がさらに高まり、生徒の姿をより具体的に見たり目指す生徒像に近づくことができたりすると考える。

#### 【参考・引用文献】

- (1) 名古屋恒彦, 「各教科等を合わせた指導」 エッセンシャルブック, ジアース出版社, 2019
- (2) 名古屋恒彦, わかる!できる! 「各教科等を合わせた指導」 教育出版, 2016
- (3) 子ども主体の教育研究会, 「各教科等を合わせた指導 ガイドブック 生活単元学習・作業学習の進め方 Q&A」 K&H, 2009
- (4) 特特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編 (上), 文部科学省, 2019